



4. 免許・資格等

免許・資格

免許・資格の取得には、定められた単位を修得する必要があります。修得した者には受験資格等が与えられます。

免許・資格	授与
公認心理師	受験資格（一部）
認定心理士・認定心理士（心理調査）	申請（受験）資格
社会調査士	申請（受験）資格
准学校心理士	申請（受験）資格

履修登録

- ① 免許・資格の各課程に共通している科目を履修した場合、その単位はいずれの課程においても有効です。
- ② 免許・資格課程を履修するには、定められた学年に履修登録をしなければなりません。カリキュラム変更などにより、授業科目が開講されず、再履修できない場合があります。

公認心理師

公認心理師とは

公認心理師法に基づいた国家資格であり、保健医療・福祉・教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

を行うことを業とする者をいいます。

資格取得には

「公認心理師（学部カリキュラム）課程科目」に記載された所定の科目の単位を修得し、その後大学院において必要な科目を修めてその課程を修了するか、もしくは大学卒業後一定期間の実務経験を積むことで受験資格が得られます。

「心理演習」、「公認心理師の職責」、「心理実習」の履修について

これらの科目は、公認心理師（学部カリキュラム）に関わる科目です。「心理実習」は、学外の施設で臨床実習を行うものであり、その前段階として、実習で必要になる知識や技術を習得するための「心理演習」、公認心理師としての心構えや知識を学ぶ「公認心理師の職責」が設定されています。したがって、「心理演習」、「公認心理師の職責」、「心理実習」については、公認心理師を目指す人でなければ単位を修得する必要はありません。

また、公認心理師を目指して他機関で実習を行うためには、最低限の知識や技術を習得しておく必要がありますので、これらの科目に対して、以下のように履修条件を定めます。

公認心理師（学部カリキュラム）の「心理演習」「公認心理師の職責」の履修について

公認心理師（学部カリキュラム）の「心理演習」「公認心理師の職責」を履修するためには、次の履修条件を満たしていることが必要です。

3年次秋学期終了時：①卒業単位数（124単位）のうち110単位以上を修得していること。

②原則として、3年次秋学期までに開講されている公認心理師に関する科目をすべて修得していること。

③GPAが2.60以上であること。

公認心理師（学部カリキュラム）の「心理実習」の履修について

公認心理師（学部カリキュラム）の「心理実習」を履修するためには、次の履修条件を満たしている必要があります。

3年次秋学期終了時：①卒業単位数（124単位）のうち110単位以上を修得していること。

②原則として、3年次秋学期までに開講されている公認心理師に関する科目をすべて修得していること。

③GPAが2.60以上であること。

4年次春学期終了時：4年次春学期開講科目である、「心理演習」と「公認心理師の職責」の単位を修得していること。

公認心理師課程委員会の審査

履修条件に満たない場合は、「心理演習」「公認心理師の職責」「心理実習」を履修することはできません。履修条件を満たしているかどうかを確認するため、公認心理師課程委員会で単位の取得状況等の審査を行います。その結果、指導が必要な者には、履修に関する意思確認の面談・指導を行います。

なお、履修条件を満たしていても、学生としてふさわしくない言動のある者、身だしなみやマナーのよくない者など、公認心理師となる資質が欠如していると判断される者も、「心理演習」「公認心理師の職責」「心理実習」を履修することはできません。

公認心理師ガイダンスについて

公認心理師を目指す者は、必ず公認心理師ガイダンスに出席してください。やむ得ない場合を除き、ガイダンスを欠席した者は公認心理師を目指す意思がないものとみなします。

公認心理師（学部カリキュラム）課程科目

▼心理学部心理学科（P123生）

法令上の科目 科目名	大学における開講科目			備 考
	科目名	開講年次	単位数	
公認心理師の職責	公認心理師の職責	4	2	
心理学概論	心理学概論	1	2	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	1	2	
心理学研究法	心理学研究法	1	2	
心理学統計法	心理学統計法 I	1	2	
心理学実験	心理学実験 I	2	2	
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学(知覚心理学)	2	2	
	知覚・認知心理学(認知心理学)	2	2	
学習・言語心理学	学習・言語心理学	3	2	
感情・人格心理学	感情・人格心理学(人格心理学)	1	2	
	感情・人格心理学(感情心理学)	2	2	
神経・生理心理学	神経・生理心理学	3	2	
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学(社会・集団心理学)	1	2	
	社会・集団・家族心理学(家族心理学)	3	2	
発達心理学	発達心理学	1	2	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	2	
心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	2	
心理学的支援法	心理学的支援法	3	2	
健康・医療心理学	健康・医療心理学	3	2	
福祉心理学	福祉心理学	2	2	
教育・学校心理学	教育・学校心理学(教育心理学)	2	2	
	教育・学校心理学(学校心理学)	2	2	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	3	2	
産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	2	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	3	2	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	3	2	
関係行政論	関係行政論	3	2	
心理演習	心理演習	4	2	
心理実習	心理実習	4	2	
資格取得の最低単位数			58	

認定心理士・認定心理士（心理調査）

認定心理士とは

心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の標準的基礎学力と技能を修得している、と公益社団法人日本心理学会が認定した人に与えられる資格です。

認定心理士（心理調査）とは

「心理調査に関連する専門科目を履修した認定心理士」であると日本心理学会が認定する資格です。

資格取得には

次頁の「認定心理士課程科目」に記載された科目の単位を修得した上で日本心理学会に申請を行うことで認定が受けられます。認定委員会で申請が認められ、認定料を納めると、認定心理士名簿に氏名が登録されるとともに認定証が交付されます。審査・認定には別途費用が必要です。

認定心理士（心理調査）については、次頁記載の「認定心理士課程科目」に加え、以下の「心理調査関係科目」の単位も修得が必要です。

認定心理士（心理調査）課程 心理調査関係科目

▼心理学部心理学科（P123生）

	領域	大学における開講科目			備考	資格取得の最低単位数
		科目名	開講年次	単位数		
1) 概論	心理調査概論・心理調査法	社会調査論	1	2	1単位とみなす 1単位とみなす 1単位とみなす 1単位とみなす 1単位とみなす	2単位以上
		心理学研究法	1	2		
		調査法Ⅰ	2	2		
		心理測定法	3	2		
		面接法	3	2		
2) 統計	心理学統計	心理学統計法Ⅰ	1	2		2単位以上
		心理学統計法Ⅱ	2	2		
		心理学統計法Ⅲ	2	2		
		調査法Ⅱ	2	2		
3) 実践	発展／展開研究（実習）	調査演習Ⅰ	3	2	2つ合わせて 2単位とみなす	6単位以上
		調査演習Ⅱ	3	2		
		総合演習Ⅲ	4	2	※	
		総合演習Ⅳ	4	2	※	

※実証系心理学論文を作成していること。

認定心理士課程科目

▼心理学部心理学科 (P123生)

	領域	大学における開講科目		備考	資格取得の最低単位数		
		科目名	開講年次				単位数
基礎科目	a: 心理学概論	心理学概論	1	2	}	必修4単位	
		教育・学校心理学(教育心理学)	2	2			
	b: 心理学研究法	心理学研究法	1	2	}	4単位以上	
		実験心理学	2	2			
		心理学統計法Ⅰ	1	2			
		心理学統計法Ⅱ	2	2			
		心理学統計法Ⅲ	2	2			
		調査法Ⅰ	2	2			
		調査法Ⅱ	2	2			
		行動観察法	3	2			
	心理測定法	3	2				
	c: 心理学実験実習	心理学実験Ⅰ	2	2	}	必修4単位	
心理学実験Ⅱ		2	2				
選択科目	d: 知覚心理学・ 学習心理学	知覚・認知心理学(知覚心理学)	2	2	}	5領域のうち3領域以上、それぞれ4単位以上	
		知覚・認知心理学(認知心理学)	2	2			
		感情・人格心理学(感情心理学)	2	2			
		学習・言語心理学	3	2			
		色彩心理学	4	2			
	e: 生理心理学・ 比較心理学	神経・生理心理学	3	2			
		動物心理学	4	2			
	f: 教育心理学・ 発達心理学	発達心理学	1	2			
		教育・学校心理学(学校心理学)	2	2			
		適応の心理学	3	2			
	g: 臨床心理学・ 人格心理学	臨床心理学概論	1	2			
		感情・人格心理学(人格心理学)	1	2			
		障害者・障害児心理学	2	2			
		心理的アセスメント	2	2			
		福祉心理学	2	2			
		健康・医療心理学	3	2			
		心理学的支援法	3	2			
	h: 社会心理学・ 産業心理学	精神疾患とその治療	3	2			1単位とみなす
		社会・集団・家族心理学(社会・集団心理学)	1	2			
		コミュニケーション心理学	1	2			
対人認知論		1	2				
産業・組織心理学		2	2				
社会・集団・家族心理学(家族心理学)		3	2				
応用心理学		3	2				
i: 心理学関連科目 卒業論文・卒業研究	文化心理学	4	2				
	総合演習Ⅲ	4	2				
その他	総合演習Ⅳ	4	2				

36単位以上

16単位以上

社会調査士

社会調査士とは

一般社団法人社会調査協会における認定資格であり、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有すると社会調査協会が認定した人に与えられるものです。

資格取得には

下記記載の所定の科目の単位を修得した上で、社会調査協会に申請を行うことで卒業時に認定が受けられます。また、大学3年次に所定の科目の単位を修得済み及び履修中であれば、「社会調査士（キャンディデイト）」の申請をすることが可能です。審査・認定には別途費用が必要となり、2022年度現在、「社会調査士」「社会調査士（キャンディデイト）」共に16,500円です。

社会調査士課程科目

▼心理学部心理学科（P123生）

指定カリキュラム	大学における開講科目				備考
	科目名	開講年次	単位数		
			必修	選択	
【A】社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査論	1	2		
【B】調査設計と実施方法に関する科目	調査法Ⅰ	2	2		
【C】基本的な資料とデータの分析に関する科目	調査法Ⅱ	2	2		
【D】社会調査に必要な統計学に関する科目	心理学統計法Ⅰ	1	2		
【E】多変量解析の方法に関する科目	心理学統計法Ⅲ	2		2	
【F】質的な調査と分析の方法に関する科目	面接法	3		2	
【G】社会調査を実際に経験し学習する科目	調査演習Ⅰ	3	2		
	調査演習Ⅱ	3	2		
資格取得の最低単位数			12	2	

准学校心理士

准学校心理士とは

学校心理士*)に準ずる資格です。学校心理士用の研修を受講し、通常より短い実務経験期間(3年間)で学校心理士を受験することができます。なお、ここでいう実務経験とは、1条校(学校教育法)または幼稚園・保育所等の保育施設、教育委員会、教育研究所・教育センター、教育相談所、あるいは児童相談所・児童センター・保健センター、養護施設などの専門機関における職員・相談員・支援員などの業務をさします。

*) 学校心理士とは、学校生活におけるさまざまな問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対して、「学校心理学」の専門的知識と技能をもって、心理教育的援助サービスを行うことのできる者に対して、一般社団法人学校心理士認定運営機構が認定する資格です。

資格取得には

下記の「准学校心理士課程科目」に記載された科目の単位を修得した上で、学校心理士認定運営機構に申請を行うことで認定が受けられます。認定委員会で申請が認められ、諸経費を納めると、准学校心理士名簿に氏名が登録されるとともに認定証が交付されます。審査・認定に必要な経費は、2022年現在、審査事務手数料3,000円、登録事務手数料3,000円+3年分の年会費9,000円(3,000円/年)、合計15,000円です。

なお、准学校心理士の資格有効期間は3年で、更新はありません。また、学校心理士受験の期限は、准学校心理士資格取得後3年~6年の間です。

准学校心理士課程科目

▼心理学部心理学科(P123生)

指定カリキュラム	大学における開講科目				備考
	科目名	開講年次	単位数		
			必修	選択	
1. 教育・学校心理学	教育・学校心理学(教育心理学)	2		2	
	教育・学校心理学(学校心理学)	2		2	
2. 発達心理学	発達心理学	1	2		
3. 障害者・障害児の心理学	障害者・障害児心理学	2		2	
4. 福祉心理学	福祉心理学	2		2	
5. 心理学的アセスメント	心理学的アセスメント	2		2	
6. 心理学的支援法	心理学的支援法	3		2	
資格取得の最低単位数			2	12	